

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子～



つばさ

11月号No. 9

令和7年10月31日

さいたま市立つばさ小学校



年間重点目標

廊下は静かに右側歩行をしよう

11月の生活目標

教室や廊下を整理整頓しよう

11月の保健目標

かぜにまけない体をつくろう

一度きりの人生を幸せに・豊かに

校長 浅野 博一

本日10月31日(金)、第26回関東甲信越地区小学校理科教育研究大会埼玉大会をつばさ小学校が授業公開校となり開催いたします。

北は青森県・南は岐阜県から、現在、把握している状況では、93名の方々が来校します。文部科学省からは、初等中等教育局 教育課程課教科調査官(小学校理科) 有本 淳 様をご訪問くださることとなりました。全体指導は、元 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官・学力調査官を務められた十文字学園女子大学 教授 塚田 昭一 様にこれまで懇切丁寧にご指導を賜りました。

「沈黙の春」の著者で知られるレイチェル・カーソンは、【センス・オブ・ワンダー】でこう語ります…。

『生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」をいつも新鮮にたもちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界のよこび、感激、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります。』

…つばさの子どもたちには、奇跡的にもこの世に生を受けた喜びを実感し、この世界の素晴らしさに大いに感動して、一度きりの人生を豊かに幸せなものとしてほしいと、わたしたち教職員は願っています。

子どもは、教科の目標を達成するために生きているわけではないのです。幸福で心豊かに生きるために生まれてきたのです。

右の写真は、小さくて見えにくいかもしれませんが、掌の上に、羽化したてのアゲハチョウが乗っています。

業間休みの“旅立ちの会”のワンシーンです。

下の写真は、「太陽とかげ」の学習での何気ないワンシーンです。

現在、教育界では、様々な議論が行われていますが、わたしたち・つばさ小の教職員は、【子どもと共に、わくわく・ドキドキした授業を大切にしたい!】と考えています。

ソニー創業者である井深 大氏が、かつて、ある教師に、【なぜ、小学3年生の理科に、豆電球の学習が位置付けられているのだろうか】…と問うて、その教師が返答に窮していたところ、【小学3年生が豆電球の学習を通して、先生のことが大好きになるためではないだろうか】と語ったといひます。

…充実した学びを通し、先生のことが大好きになった子どもは、きっと、未知なる様々な問題に対しても、主体的に解決しようとする子どもへと育っていくのではないのでしょうか。

…「みんなと一緒に学んで、楽しい!!」「この世界は、わくわく・ドキドキ、なんて素晴らしいのだろう!!」「また、明日も学校に来てみんなと学びたい!!」「先生、大好き!!」…そんな子どもたちの思いが表出する授業が実現できた時、子どもたちは、VUCA時代をたくましく生き抜く資質・能力の土台が築き上がるはずです。

国立教育政策研究所の示す「評価の基本構造」の「感性など」の箇所こそが、「自立した学習者」の基盤ととらえ、つばさ小学校は、教師も子どもと共に、わくわく・ドキドキの学びを楽しんでまいります。

おめでとうございます!

◆第60回記念「郷土を描く児童生徒美術展」

【特選】

【入選】

◆さいたま市平和図画・ポスターコンクール

【奨励賞】

◆小学生絵画展 in 宮原駅

【優秀作品】

◆宮原公民館子どもまつり展示の部学校代表

【絵画の部】

1年
2年
3年
4年
5年
6年

【書写の部】

3年
4年
5年
6年

◆日進ステーションギャラリー出品学校代表

1年
2年
3年

4年
5年
6年

◆さいたま市読書感想文コンクール

【推薦賞】 2年

【特選賞】 1年

5年
【入選賞】 2年
3年
4年
6年

◆第25回さいたま市児童生徒科学教育振興展覧会

【優良賞】 6年

◆放置自転車追放ポスターコンクール

【努力賞】 5年

◆埼玉県児童・生徒発明創意くふう展

【出品】 5年